

先週の礼拝メッセージ(2021年7月11日)

「愛のゆえに」 エフェソの信徒への手紙 2:4-6 ベン牧師

聖書のいくつかの箇所、「私たちはイエス様と共に死んで、よみがえった」ということは記されていますが、6節にあるように、私たちが「イエス様と共に天の王座に着かせてくださった」と表現しているのは、実はエフェソの手紙だけなのです。私たちは、イエス様と一緒によみがえって終わりではなく、イエス様と一緒に王座についているのです。なんという恵みでしょう。

イエス様はよみがえられ、「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。」(マタイ 28:18)とおっしゃられました。その王座に私たちも共にについているのです。もちろん肉体的にそうだとおっしゃっているのではなく、霊的な意味です。私たちがイエス様を信じバプテスマを受けた時、私たちはイエス様と共に死に、イエス様とともによみがえったのです。先週の言葉を用いるなら、「罪によって死んでいた私」が死んだのです。面白い表現ですね。そしてイエス様と共によみがえり、主と共に天の王座についているのです。

実際の生活の中で、私たちは試練に遭い、様々な問題に直面します。そんな中で「あなたは王座に着いている」とか「すべての主権、権威の上にいるのだ」と言われても、「ちょっと・・・」と思われる方もきっといらっしゃるでしょう。

以前にもお話ししましたように、エフェソの町にはギリシャ神話の女神を祀った、アルテミス神殿という大きな神殿がありました。日本でいう門前町としてエフェソは栄えていたのです。そのような町に住むクリスチャンたちは、当然、神殿にお参りには行かず、しかも、当時のクリスチャンのほとんどは奴隷という立場でした。ですから、迫害や嫌がらせがあったことは容易に想像できます。彼らは、天の王座どころか、毎日が苦難の連続だったのです。だからこそ、パウロはあえてエフェソの教会の人たちに対して、あなたたちは天の王座についているんだよと呼びかけるのです。見えるところは困難の連続かもしれない、しかし、目に見えるところだけが本当の現実ではないということを、彼らに伝えたかったのです。

時々、信仰は信仰、現実が現実、教会で聖書について、神様について聞いても、現実の世界ではそんなものは通用しないという声を耳にすることがあります。しかし聖書は、信仰と現実を分けてはいません。私たちの信仰は、現実の世界の中で生かされるものであり、天の王座に着いているということもこの世において信仰をもってアーメンと受け取っていくのです。

「目に見えるものによらず、信仰によって歩んでいるからです。」(II コリント 5:7)と、パウロ自身も言っています。パウロの人生も苦難の連続でした。そのパウロがこう告白しているのです。

神の言葉はなんと言っているのか、イエス様の約束はどこにあるのか、そうです。イエス様はすでに勝利をとっていきださる、「わたしの父がわたしにくださったものは、すべてのものより偉大であり、だれも父の手から奪うことはできない。」(ヨハネ 10:29)と約束していきださっているのです。私たちは足りなく、弱く、苦勞の連続かもしれない、しかし、パウロもそうでした。エフェソ教会の人もそうでした。だからこそ、どこに目を止めるかが大切なのです。神様は生きて働き、私たちを導いてくださっているのです。

ではなぜ、神様は私たちに辛いところを通らせなさるのでしょう。私たちは自分が辛いところ、弱いところを通して初めて痛みというものを知るのです。痛みを知ることなしには、他の人の痛み苦しみを知ることはできません。自分と同じ痛みを経験した人に、同じ痛みを知る者として寄り添えるのです。弱さは宝であり、ある意味、伝道の武器にもなるのです。

パウロは、自身の弱さ、エフェソ教会の弱さを知った上で、そこに目を止めるのではなく、あなたたちは、すべての主権を持っておられる主イエス様と共に、天の王座に着いているという事実を目を止めなさいと語るのです。

神様は、ただ私たちを愛するゆえに、神の主権をもって私たちを救ってくださったのです。だから、救いの基準を自分自身に置くのはやめましょう。救いの根本は、神の恵みによるのです。恵みとは受ける資格がないものに与えられるものです。

かつて死んでいたものが、生かされ、イエス様にあつてよみがえり、イエス様と共に天の王座に着いている、なんという恵みでしょう。

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイ 28:20) とイエス様は言われましたが、「いつも」とはどういうことですか？恵まれている時だけでしょうか？いいえ、いつもとは、私が落ち込んでいる時も、思うように祈れない時も、辛いところを通っている時も、どんな時ともいう意味です。主はいつもあなたと共にいてくださるのです。足りなくても弱くてもいいのです。ただそこに目を止めるのではなく、約束の主を目を止めましょう。そうする時、勝利が与えられ、試練はなくてはならない宝となるのです。日々の生活の中に主は共にいてくださり、愛ゆえに私たちを救い、天の王座につけてくださっているのです。感謝し、委ねて、従っていきましょう。